

科目名	ビジネス基礎	学年	専修3年生	使用教材	教科書	ビジネス基礎 (TAC 商業 703)
		単位数	2 単位		副教材	
学習の目標						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習の概要						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	第1章商業の学習とビジネス ・社会や産業全体の課題とその解決のために商業が果たしている役割を理解する。 第2章ビジネスとコミュニケーション 第3章経済と流通		商業の学習のガイダンスとしての役割も担っており、さらに卒業後の進路や職業について考える学習活動を取り入れる。 ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的・協働的に取り組む態度を養う。生産要素の概要と希少性、経済主体の役割、経済活動の循環、トレード・オフ、価格の決定と変動の仕組みについて学ぶ。		教科書 グループワーク	
後期	第4章ビジネスと売買取引 5章企業の活動 第6章身近な地域のビジネス		ビジネスに関する国内の身近な地域の抱える課題について扱い、地域の発展に及ぼす影響と関連付けて分析し、考察する。 ・国内の身近な地域のビジネスの動向を学び、地域の特色を生かしたビジネスの振興策を考案する。		教科書 グループワーク	
観点別評価規準および評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
・経済社会における事例など実際のビジネスと関連付けながら、さまざまな場面で役立つビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。		ビジネスをはじめとしたさまざまな知識・技能などを活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例など科学的な根拠に基づいてよりよく解決する力を身に付けている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組んでいる。		
ワークシートの取り組み 振り返りのプリント記入		ワークシートの取り組み 振り返りのプリント記入		個人、グループワークの取り組み姿勢		
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度　＝　1　：　1　：　1						
担当者からのメッセージ						
社会人の皆さんにとって日々の生活の中で新聞やテレビ、インターネットでビジネスについて考えることが多くあります。この授業では需要と供給といった理論やビジネスの計算といった基本的な内容と、時事問題について考える時間を取りたいと考えています。						

科目名	財務会計Ⅰ	学年	専修3年生	使用教材	教科書	7実教 727 高校財務会計Ⅰ
		単位数	3単位(必修・ <u>選択</u>)		副教材	日商簿記検定問題集等
学習の目標						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。						
学習の概要						
(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。						
(2) 企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。						
(3) 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。						
学期	学習内容			学習のねらい		学習方法
前期 後期	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と企業会計 第2章 企業会計制度と会計基準			・企業会計の意義やその役割を理解する。 ・財務会計と管理会計の違いおよび財務会計の機能を理解する。 ・株式会社のしくみを理解する。		小テスト
	第2編 資産 第3章 資産の分類と評価 第4章 流動資産(その1 当座資産) 第5章 流動資産(その2 棚卸資産・その他の流動資産) 第6章 固定資産(その1 有形固定資産) 第7章 固定資産(その2 リース取引) 第8章 固定資産(その3 減価償却) 第9章 固定資産(その4 無形固定資産) 第10章 固定資産(その5 投資その他の資産)			・資産の意味と分類を理解する。 ・棚卸資産の取得原価、期末評価、棚卸減耗損・商品評価損の内容を理解し、その処理法を習得する。 ・有形固定資産に対する支出について資本的支出と収益的支出の考え方と、処理法を理解する。 ・リース資産の意味と分類を理解させ、その会計処理を習得する。 ・減価償却の計算方法と、各計算方法の特徴を理解する。 ・無形固定資産の期末評価を理解する。		小テスト
	第3編 負債と純資産 第11章 負債 第12章 純資産			・流動負債と固定負債の意味と種類を理解する。 ・引当金の意味とその処理法を理解する。		小テスト

第4編 損益計算 第13章 損益計算の意味と基準 第14章 営業損益の計算 第15章 経常損益の計算（その1 営業外損益） 第16章 経常損益の計算（その2 外貨建取引） 第17章 当期純利益の計算（その1 特別損益） 第18章 当期純利益の計算（その2 法人税等） 第5編 財務諸表の作成 第19章 貸借対照表の作成 第20章 損益計算書の作成 第21章 その他の財務諸表の作成 第6編 財務諸表の活用 第22章 財務諸表分析 第23章 連結財務諸表の活用 第24章 連結財務諸表の作成（その1） 第25章 連結財務諸表の作成（その2）	・損益計算の基準（発生主義・実現主義）や、それぞれの特色を理解する。 ・営業収益の内容と認識の基準を理解する。 ・営業費用の内容と種類を理解する。 ・外貨建取引の意味や特別損益の意味と内容や、その会計処理を理解する。 ・法人税等の会計処理を理解する。 ・税効果会計の意味と会計処理を理解する。 ・貸借対照表の作成方法や形式、区分と科目の分類、配列などについて理解する。 ・損益計算書の形式、区分と科目の分類、配列などについて理解する。 ・株主資本等変動計算書の作成方法について理解する。 ・財務諸表分析の方法を理解する。 ・連結財務諸表がどのように活用されているのかを理解する。 ・投資と資本の相殺消去の手続きについて理解する。	小テスト 小テスト 小テスト
観点別評価規準および評価方法		
知識・技能 財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている	思考・判断・表現 会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなどを理解し、企業の実態を総合的に分析する力が身についている。	主体的に学習に取り組む態度 会計責任を果たす力の向上を目指して適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身についている。
小テスト 提出物	小テスト 提出物	提出物
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ 1：1：1		
担当者からのメッセージ		
3年次からの継続になりますので、実施内容は年度ごとに变化します。		
復習を重視して学習してください。やみくもに新しい問題に取り組むのではなく、同じ問題を何回も解いてください。そうすることで確実に簿記の力が養われます。 問題を解くうえで不明なところがあれば随時質問してください。		

科目名	財務会計Ⅰ	学年	専修３年生	使用教材	教科書	実教出版 高校財務会計Ⅰ 新訂版
		必修 選択			副教材	実教出版 最新段階式 日商簿記検定問題集２級
		単位数	半期３単位			
学習の目標						
財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。						
学習の方法						
教科書・プリントを使用し、説明と板書を中心に、基本問題を解いていく形式で学習する。						
学習の計画						
学期	学習内容			学習のねらい		
後期	第Ⅰ編 財務会計の基礎 第Ⅰ章 企業と企業会計 第Ⅱ章 企業会計制度と会計基準 第Ⅲ章 企業会計の歴史 第Ⅱ編 資産 第Ⅳ章 資産の分類と評価 第Ⅴ章 流動資産（そのⅠ 当座資産） 第Ⅵ章 流動資産（そのⅡ 棚卸資産・その他の） 第Ⅶ章 固定資産（そのⅠ 有形固定資産） 第Ⅷ章 固定資産（そのⅡ 減価償却） 第Ⅸ章 固定資産（そのⅢ 無形固定資産） 第Ⅹ章 固定資産（そのⅣ 投資その他の資産） 第Ⅲ編 負債と純資産 第Ⅺ章 負債 第Ⅻ章 純資産 第Ⅳ編 損益計算 第Ⅼ章 損益計算の意味と基準 第Ⅽ章 営業損益の計算 第Ⅾ章 経常損益の計算 第Ⅿ章 当期純利益の計算 第Ⅴ編 財務諸表の作成 第ⅰ章 貸借対照表の作成 第ⅱ章 損益計算書の作成 第ⅲ章 その他の財務諸表の作成 第Ⅵ編 連結財務諸表 第Ⅶ編 財務諸表の活用			企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準を取扱い、財務会計の概要について理解させる。 資産、負債、純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成を取り扱い、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得させる。 損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成を取り扱い、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得させる。 連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得させる。		
評価基準・評価方法						
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
財務会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。		財務諸表の作成方法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。		財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理することができる。		財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、財務会計の意義や制度について理解している。
・授業への参加・出欠状況		・小テスト（授業時実施） ・課題の提出		・小テスト（授業時実施） ・課題の提出		・小テスト（授業時実施） ・問題演習
担当者からのメッセージ						
財務会計の意義、会計法規及び会計基準について理解するとともに、会計に関する法規や基準の変更に対応し、会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報をビジネスの諸活動に活用しましょう。						

[illegible]

学習の目標				
簿記に関する知識と技術を習得させ、基礎的な会計の考え方、仕組みを理解させるとともに、適切な会計処理を行う能力を育てる。				
学習の方法				
教科書、補助プリント、インターネット等を活用し、説明する。				
学習の計画				
学 期	学習内容		学習のねらい	
前 期	1 企業の簿記 2 簿記の要素 3 取引と勘定 4 仕訳と転記 5 仕訳帳と総勘定元帳 6 試算表 7 決算 8 現金・預金の記帳 9 商品売買の記帳 10 掛け取引の記帳 11 固定資産の記帳 12 決算（その1） 13 手形取引の記帳 14 有価証券の記帳 15 その他の債権・債務の記帳		・簿記の意味と役割、記帳の重要性を学びます。 ・簿記の5つの要素を学び、貸借対照表及び損益計算書の作成を学習します。 ・取引と勘定の意味を学び、勘定記入の方法を習得します。 ・取引を仕訳し、勘定口座への転記を学びます。 ・仕訳帳と総勘定元帳への記入方法を学びます。 ・試算表と精算表の意味や仕組みを理解し、それぞれの表の作成を学習します。	
	16 販売費及び一般管理費の記帳 17 資本金の記帳 18 決算（その2） 19 帳簿 20 仕訳伝票と3伝票制 21 5伝票制 22 特殊な手形取引の記帳 23 決算（その3） 24 支店の取引 25 本支店の財務諸表の合併 26 複合仕訳帳制による記帳 27 設立と開業の記帳		・企業において発生する様々な種類の取引について学び、その仕訳や帳簿記入の方法を学びます。 ・決算整理をともなった決算について学習します。 ・伝票を用いて記帳する方法を習得します。	
	28 剰余金の処分に関する記帳 29 社債の記帳 30 株式会社の税金の記帳		・企業において発生する様々な種類の取引について学び、その仕訳や帳簿記入の方法を学びます。 ・企業と税金の関係性について学び、その仕訳の方法を学びます。	
評価規準・評価方法				
関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解
・株式会社における簿記に関心をもち、その知識と技術の習得を目指し、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。		・様々な処理法や記帳法について、自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	・株式会社における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現できる。	・株式会社における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、簿記の基本的な仕組みについて理解している。
・授業態度・出席状況 ・課題の提出		・授業内考査 ・小テスト	・授業内考査 ・小テスト	・授業内考査 ・小テスト
・評価は授業内考査、小テストの成績、課題の提出、学習活動、授業中の態度、出席状況を総合して評価する。				
担当者からのメッセージ				
ICT化が進み、企業経理はAIに代わると言われていますが、簿記の必要性が失われることはありません。簿記とはただ金額を計算し、財務報告書類を作成するだけの知識ではなく、企業の経営活動を数字として捉える力を育むことができます。日本の経済社会、特に株式会社を理解するためには、簿記の知識と技術は必要不可欠です。3年次では基礎的なところを学びます。集大成として、日商簿記3級の試験にチャレンジしましょう。				

科目名	原価計算	学年	専修3年生	使用教材	教科書	7実教 720 原価計算
		単位数	3単位(必修・選択)		副教材	日商簿記検定問題集等
学習の目標						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。						
学習の概要						
(1)原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。						
(2)原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。						
(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学期	学習内容			学習のねらい		学習方法
通年	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記-製造業における簿記 -			・工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解させる。 ・原価要素の性格とその分類について理解させる。 ・工業簿記における勘定記入の特徴を理解させる。		小テスト
	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算			・材料費、労務費、経費の分類とその内容を理解させる。 ・費目別の計算方法と記帳方法を理解させる。		小テスト
	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理			・個別原価計算のしくみを理解させる。 ・総合原価計算の種類を理解させる。 ・減損と仕損の意味と、それが発生した場合の処理方法を理解させる		小テスト
	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引			・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解させる。 ・月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。		小テスト
	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算(その1) 第15章 標準原価計算(その2)			・標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 ・完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解させる。		小テスト
	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2)			・直接原価計算表の意義と特色を理解させる。 ・直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解させる。		小テスト

観点別評価規準および評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
原価計算に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている	原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなどを理解し、企業の実態を総合的に分析する力が身についている。	原価情報の提供と効果的な活用に関心をもっており、責任をもって取り組む態度が身についている。
小テスト 提出物	小テスト 提出物	提出物
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ １：１：１		
担当者からのメッセージ 復習を重視して学習してください。やみくもに新しい問題に取り組むのではなく、同じ問題を何回も解いてください。そうすることで確実に簿記の力が養われます。 問題を解くうえで不明なところがあれば随時質問してください。		

科目名	情報処理	学年	専修３年生	使用教材	教科書	教科書 商業７Ⅰ 6「情報処理」
		単位数	単位（必修・選択）		副教材	
学習の目標						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学習の概要						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	１章 企業活動と情報処理 ２章 コンピュータシステムと情報通 ３章 情報の集計と分析 ４章 ビジネス文書の作成		情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 表計算ソフトを使用した情報処理の手法を学ぶ。 ワードプロを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できるか。 ワードプロの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、ワードプロの機能などを理解できたか。		身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。 コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付ける。 表計算ソフトを使用したデータの分析の手法を身につける。ワードプロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。 基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。	
	５章 プレゼンテーション		プレゼンテーション活動の意義や役割を理解するとともに、情報収集や整理、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身に付けているか。		ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。	
後期						
観点別評価規準および評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
練習問題の完成度		練習問題への取り組み		練習問題への取り組み姿勢		
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ Ⅰ：Ⅰ：Ⅰ						
担当者からのメッセージ						
実技科目ですのでできるだけ休まずに出席してください。タイピングの技術はコンピュータスキルを磨くために必須ですのできちんと取り組みましょう。日本情報処理検定協会主催の検定や全国商業高等学校協会主催の検定や日本情報処理検定協会検定へ対応できます。						

科目名	I T管理	学年	専修生	使用教材	教科書	テキスト、問題集
		選択			副教材	
		単位数	前後期2単位			
学習の目標						
<前期>現代社会が求めているリスクリングの技術に因應べく、IT に関わる職業人としてだれもが共通に備えておくべき基礎的な知識を身に着けることを目標とする。IT パスポート試験の学習を通して、IT に関する基本的な知識を持たない社会人を対象に、IT パスポートの CBT 試験対策もおこなう。 <後期>IT に関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、マーケティング・財務・法務などの機能別戦略、IT を活用する上で前提となる幅広い知識をバランスよく学習する。業務の課題把握と IT を活用した課題解決力が備わり、ビジネスパーソンとしてのスキル向上や、仕事の効率化に役立てる。発展的学習として、基本情報技術者試験の範囲にも進みたいと考えている。						
学習の方法						
講義と問題集による問題演習。						
学習の計画						
学期	学習内容			学習のねらい		
前期	(1) ハードウェア[テクノロジ系] (2) ソフトウェア[テクノロジ系] (3) システム構成[テクノロジ系] (4) ネットワーク[テクノロジ系] (5) セキュリティ[テクノロジ系]			情報に関する理論を理解する。 コンピュータの構成と CPU について理解する。 五大装置について理解する。 確率、基数変換について理解する。 ソフトウェアと OS について理解する。 バックアップについて理解する。 表計算について理解する システム構成・稼働率について理解する。 無線 LAN・通信プロトコルについて理解する。 インターネットの仕組みについて理解する。		
後期	(6) 企業活動と法務[ストラテジ系] (7) 経営戦略とシステム戦略[ストラテジ系] (8) マネジメント[マネジメント系]			情報資産とマルウェアについて理解する。 ネットワークセキュリティについて理解する。 財務諸表について理解する。 知的財産権について理解する。 セキュリティ関連法規について理解する。 企業活動と組織論について理解する。 情報システム戦略について理解する。 IT サービスマネジメントについて理解する。 システム監査について理解する。		
評価規準・評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
IT 管理に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、IT 管理の基礎理論及び基本構造について理解している。		IT 管理における各種の計算・分析方法や原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。		IT 管理の知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、そこから得られる情報を活用する態度を身につけている。		
小テスト、提出物		小テスト、提出物		提出物		
担当者からのメッセージ						
・なるべく欠席しないようにしてください。 ・機会があれば、IT パスポート試験や基本情報技術者試験に挑戦してください。						

科目名	社会保障と保険	学年	専修生	使用教材	教科書	テキスト、問題集
		選択			副教材	
		単位数	前後期2単位			
学習の目標						
＜前期＞金融・経済の基本、貯蓄型金融商品、債券、株式、投資信託、外貨建て金融商品、金融商品と税金について学ぶ。 ＜後期＞社会人として身につけておきたい暮らしとお金の知識を身につける。社会保障と公的年金分野を学び現代社会における危機管理能力を身につける。生命保険や損害保険について学ぶことでビジネス社会におけるリスク管理能力を身につける。						
学習の方法						
講義と問題集による問題演習。株式の模擬売買取引による実践。						
学習の計画						
学期	学習内容			学習のねらい		
前期	(1) ライフプランニングと資金計画			FPの基本について理解する。 ファイナンシャル・プランニングと関連法規について理解する。 ライフプランニングの手法を習得する。 複利計算の技術を身につける。 公的年金について理解する。 企業の財政状態、経営成績の把握ができるようになる。 各金融資産の特徴や、景気の変動について理解する。 株式投資の体験を通して、実践的に理解する。		
	(2) 金融資産運用			保険制度について理解する。 生命保険について理解する。 損害保険について理解する。 第三分野の保険について理解する。		
	(3) リスクマネジメント					
後期	(4) タックスプランニング			税金について理解する。 税額の計算方法を身につける。 税額控除や申請方法について理解する。 不動産の基本について理解する。 不動産の取引や、関連する法令について理解する。 相続の基本について理解する。 相続税、贈与税について理解する。 財産の評価方法を身につける。 相続・事業承継対策を知る。		
	(5) 不動産					
	(6) 相続・事業承継					
評価規準・評価方法						
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
FPに関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、そこから得られる情報を活用する態度を身につけている。		FPにおける各種の計算・分析方法や原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。		FPにおける各種の計算・分析方法に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、得られる情報を的確に活用することができる。		FPに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、基礎理論及び基本構造について理解している。
授業への参加		問題演習・小テスト・提出物		問題演習・小テスト・提出物		問題演習・小テスト・提出物
担当者からのメッセージ						
・なるべく欠席しないようにしてください。 ・機会があれば、ファイナンシャルプランニング技能士3級、2級に挑戦してください。						

科目名	課題研究	学年	専修4年生	使用教材	教科書	なし
		単位数	通年2単位 (必修選択)		副教材	株式学習ゲームテキストブック
学習の目標						
・身の回りの経済問題について、生徒同士で意見交換を行い、多様な考え方を認める。 ・意見交換を行い、生徒の関心が高かった内容については、外部講師を招喚する。 ・専門的なアプリケーションを使用して、成果物を作成できる。						
学習の概要						
クラス編成は1クラスを基本とする。状況によってはグループに分かれて活動する場合もある。						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	・身の回りの経済問題に着目し課題と解決方法を考察する。「株式学習ゲーム」とおして、財務会計で学んだ知識の再確認を行う。 ・プレゼーションソフト「パワーポイント」を使って、プレゼン能力を養う。 ・表計算ソフトエクセルを使って、「情報処理」「ソフトウェア活用」で学んだ知識と技術を応用し、より高度な取り組みと考察を行う。		・日本経済新聞の記事から株価が景気・金利・国際情勢・天候自然災害・外国為替の要因により大きく変動することを理解する。 ・プレゼンテーションソフトを上手く使いこなせるか。 ・ビジネスの業務で、エクセルがどのように使われているか研究する。		新聞記事などの最新の情報を利用する。 株式学習ゲームソフトを利用する。 PowerPoint を利用してプレゼンテーション用資料を作成する。 ・表計算ソフトエクセルを使用し、より高度な技術の習得に挑戦する。	
	・ムーンライトセミナーのテーマを決め、講師招聘を行い、事前学習・事後学習をおして問題解決を行う。 ・専修コース2年間で学んだまとめを作成する。		・事前にグループで調べ学習を行ったうえで、意見交換やプレゼンを行う。 ・専修コース入学時の目標が達成できたかの確認		テーマ内容の調べ学習を行う。	
後期						
観点別評価規準および評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
パワーポイント・エクセル等のアプリケーションソフトウェアの高度な知識と技術を習得できたか。		ムーンライトセミナーの企画をおして、テーマの問題解決に積極的に取り組めたか。		専修コースの学習目標に沿った学習の取り組みがこの2年間で積極的に行うことができたか。		
成果物		成果物		成果物、出席状況		
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ 1：1：1						
担当者からのメッセージ						
課題研究は、最新のソフトウェアを使用して発展的な学習を行います。生徒の皆さんの自主的な調査・研究も必要になります。また、後期には活動成果発表会で全校生徒に向けて発表する機会もあります。専修コースの集大成となるよう頑張りましょう。						

科目名	ソフトウェア活用	学年	専修４年	使用教材	教科書	商業７３６「ソフトウェア活用」 実教出版
		単位数	３単位（必修）		副教材	ビジネス文書実務検定Ⅰ級・Ⅱ級 全商情報処理検定模擬問題Ⅰ級
学習の目標						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学習の概要						
教科書、添付資料などを用いて基礎知識を学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	１章 企業活動とソフトウェア活用 １節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ２節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化		・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・Society5.0 が実現しようとしている社会について考察し、ソフトウェアの活用例と目的を理解する。		・プリントやパワーポイントで説明 ・表計算ソフト、文書作成ソフトを中心に実技で学ぶ。	
	２章 情報通信ネットワークの活用 １節 情報通信ネットワークの導入と運用 ２節 情報資産の保護 ３章 表計算ソフトウェアの活用 １節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 ２節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ ４章 データベースソフトウェアの活用 １節 ビジネスとデータベース ２節 データベースの作成と操作 ３節 SQL の操作 ５章 情報システムの開発 １節 システム開発の基礎 ２節 アルゴリズムの基礎 ・検定に向けての取り組み		・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解する。 ・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 ・情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を理解させ、簡単なデータベースを設計し、活用できるようにする。 ・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。		・プリントやパワーポイントで説明 ・表計算ソフト、文書作成ソフトを中心に実技で学ぶ。 ・全商情報処理検定試験に向けて模擬問題に取り組む。 ・表計算ソフト、文書作成ソフトを中心に実技で学ぶ。	
観点別評価規準および評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
・定期考査 ・ファイル等の成果物（デジタルデータ）		・定期考査 ・Forms やライフイズテックの成果物		・授業態度 ・提出物の提出状況		
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ ： ：						
担当者からのメッセージ						
全商情報処理検定模擬問題Ⅰ級の合格を目指しながらの授業になるので、講義になりがちなならないよう実技も取り入れる必要がある。 ライフイズテックの情報教材を活用しながら、情報デザインやプログラミングの基礎の学習も進めていくことも必要である。 定期考査だけでなく、授業中の取り組みの様子や内容も含め、総合的に評価します。実技的要素の強い科目なので授業に出席し、パソコン操作に慣れることが大切です。 積み重ねが重要な科目です。しっかりと課題をこなし、ＩＣＴ技術を身につけましょう。						

科目名	原価計算	学年	専修4年生	使用教材	教科書	実教出版 原価計算
		単位数	通年3単位 (必修 <u>選択</u>)		副教材	日商簿記テキスト、問題集
学習の目標						
原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習の概要						
クラス編成は1クラスを基本とする。状況によっては2クラスに分ける場合もある。						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算		・工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解させる。 ・工業簿記と原価計算の関係を理解させる。 ・原価の意味（製造原価・総原価）を理解させる。 ・個別原価計算のしくみを理解させる。 ・原価計算表の記入方法を理解させる。 ・原価元帳と製造勘定の関係を理解させる。		教科書で各計算方法の意味を理解し、テキストの設例と問題集を使用してそれぞれの計算方法と技術を身につける。	
	第4編 製品の完成・販売と決算 第5編 標準原価計算の基礎 第6編 直接原価計算の基礎		・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解させる。 ・標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知らせる。 ・標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 ・直接原価計算が利益計画に適している理由を知らせる。 ・直接原価計算表の意義と特色を理解させる。 ・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解させる。		教科書で各計算方法の意味を理解し、テキストの設例と問題集を使用してそれぞれの計算方法と技術を身につける。	
後期						
観点別評価規準および評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
それぞれの計算方法と記帳方法を理解し、適切に記帳することができる		原価計算の目的について理解し、どのような場面で活用されるかについて、思考・判断し、それを表現する仕方を身に付けている。		製造業における原価計算と工業簿記に興味を示し、自ら学習しようとする態度が見られる。		
定期考査 小テスト		定期考査 小テスト		提出物		
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ 1：1：1						
担当者からのメッセージ						
原価計算を学習するためには、復習が何よりも大切です。計算方法をしっかり身につけましょう。不明な点は、授業中に質問してください。積極的に質問することで、理解が深まります。さらなる高みを目指して一緒に頑張りましょう。						

科目名	原価計算	学年	専修4年生	使用教材	教科書	7実教 720 原価計算
		単位数	3単位(必修・ <u>選択</u>)		副教材	日商簿記検定問題集等
学習の目標						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。						
学習の概要						
(1)原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。						
(2)原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。						
(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学期	学習内容			学習のねらい		学習方法
通年	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記-製造業における簿記 -			・工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解させる。 ・原価要素の性格とその分類について理解させる。 ・工業簿記における勘定記入の特徴を理解させる。		小テスト
	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算			・材料費、労務費、経費の分類とその内容を理解させる。 ・費目別の計算方法と記帳方法を理解させる。		小テスト
	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理			・個別原価計算のしくみを理解させる。 ・総合原価計算の種類を理解させる。 ・減損と仕損の意味と、それが発生した場合の処理方法を理解させる		小テスト
	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引			・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解させる。 ・月次決算の意味と年次決算との関連について理解させる。		小テスト
	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算(その1) 第15章 標準原価計算(その2)			・標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解させる。 ・完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解させる。		小テスト
	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2)			・直接原価計算表の意義と特色を理解させる。 ・直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解させる。		小テスト

観点別評価規準および評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
原価計算に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている	原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなどを理解し、企業の実態を総合的に分析する力が身についている。	原価情報の提供と効果的な活用に関心をもっており、責任をもって取り組む態度が身についている。
小テスト 提出物	小テスト 提出物	提出物
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度　＝　１：１：１		
担当者からのメッセージ 日本商工会議所簿記２級原価計算範囲に対応しています。 復習を重視して学習してください。やみくもに新しい問題に取り組むのではなく、同じ問題を何回も解いてください。そうすることで確実に簿記の力が養われます。 問題を解くうえで不明なところがあれば随時質問してください。		

科目名	財務会計Ⅰ	学年	専修４年生	使用教材	教科書	実教出版
		必修 選択			副教材	高校財務会計Ⅰ 新訂版
		単位数	半期３単位			
学習の目標 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。						
学習の方法 教科書・プリントを使用し、説明と板書を中心に、基本問題を解いていく形式で学習する。						
学習の計画						
学期	学習内容			学習のねらい		
前期 or 後期	第１編 財務会計の基礎 第１章 企業と企業会計 第２章 企業会計制度と会計基準 第３章 企業会計の歴史 第２編 資産 第４章 資産の分類と評価 第５章 流動資産（その１ 当座資産） 第６章 流動資産（その２ 棚卸資産・その他の 第７章 固定資産（その１ 有形固定資産） 第８章 固定資産（その２ 減価償却） 第９章 固定資産（その３ 無形固定資産） 第１０章 固定資産（その４ 投資その他の資産） 第３編 負債と純資産 第１１章 負債 第１２章 純資産 第４編 損益計算 第１３章 損益計算の意味と基準 第１４章 営業損益の計算 第１５章 経常損益の計算 第１６章 当期純利益の計算 第５編 財務諸表の作成 第１７章 貸借対照表の作成 第１８章 損益計算書の作成 第１９章 その他の財務諸表の作成 第６編 連結財務諸表 第７編 財務諸表の活用			企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準を取扱い、財務会計の概要について理解させる。 資産、負債、純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成を取り扱い、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得させる。 損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成を取り扱い、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得させる。 連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得させる。		
評価基準・評価方法						
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解
財務会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。		財務諸表の作成方法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。		財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理することができる。		財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、財務会計の意義や制度について理解している。
・授業への参加・出欠状況		・小テスト（授業時実施） ・課題の提出		・小テスト（授業時実施） ・課題の提出		・小テスト（授業時実施） ・問題演習
担当者からのメッセージ 財務会計の意義、会計法規及び会計基準について理解するとともに、会計に関する法規や基準の変更に対応し、会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報をビジネスの諸活動に活用しましょう。						

担当者からのメッセージ
複雑な会計処理を学習するためには、復習が何よりも大切です。計算方法をしっかり身につけましょう。不明な点は、授業中に質問してください。積極的に質問することで、理解が深まります。さらなる高みを目指して一緒に頑張りましょう。

科目名	ソフトウェア活用	学年	専修生	使用教材	教科書	商業736「ソフトウェア活用」 実教出版
		単位数	前後期2単位		副教材	全商情報処理検定模擬問題2級
学習の目標						
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学習の概要						
教科書、添付資料などを用いて基礎知識を学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化		・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 ・Society5.0が実現しようとしている社会について考察し、ソフトウェアの活用例と目的を理解する。 ・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解する。		・プリントやパワーポイントで説明 ・表計算ソフト、文書作成ソフトを中心に実技で学ぶ。	
	2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護				・プリントやパワーポイントで説明 ・表計算ソフト、文書作成ソフトを中心に実技で学ぶ。	
後期	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース 2節 データベースの作成と操作 3節 SQLの操作 5章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎 2節 アルゴリズムの基礎 ・検定に向けての取り組み		・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。 ・情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を理解させ、データベースを設計し、活用できるようにする。 ・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。		・全商情報処理検定試験に向けて模擬問題に取り組む。 ・表計算、文書作成ソフトを中心に実技で学ぶ。	
観点別評価規準および評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
・小テスト ・授業への取り組み		・小テスト ・授業への取り組み		・授業への取り組み		
・評価は小テスト、提出物、出席等で総合的に判断する。						
担当者からのメッセージ						
情報デザインやプログラミングの基礎の学習を進めていく予定です。 授業中の取り組みの様子や内容、小テストで総合的に評価します。実技的要素の強い科目なので授業に出席し、パソコン操作に慣れることが大切です。						

科目名	社会保障と保険 (上級)	学年	専修４年生	使用教材	教科書	テキスト・問題集
		単位数	通年４単位 (必修 <u>選択</u>)		副教材	
学習の目標						
<前期> F P 技能士検定２級分野のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継について学ぶ。また、検定対策問題多く取り入れて検定合格を目指す。 <後期> 金融財政事情研究会の実技（午後）問題演習を行うことにより、社会人として身につけておきたい暮らしとお金の知識を身につける。（特に年金分野） これまでに学んできた６つの分野（F P 協会２級）で、さらに詳しく調べたい分野について事例研究による考察を行い、プレゼンテーションにより知識のお共有を図る。（生徒の検定合格率や要望により、１級の分野の学習をする可能性もあります。）						
学習の概要						
講義と問題集による問題演習。						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	1	タックスプランニング（２級分野）	所得税・法人税・消費税を理解する。 各税額の計算方法を身につける。		テキストで各単元の内容を理解し、問題集を使用して学科問題・実技問題を解いていく。	
	2	不動産（２級分野）	不動産の基本について理解する。 不動産の取引や、関連する法令について理解する。			
	3	相続・事情承継（２級分野）	相続・事象承継について理解する。 相続税・贈与税について理解する。 財産の評価について理解する。			
	4	F P 協会検定に向け問題演習	資格取得に向け、過去問等を繰り返し演習して傾向をつかみ合格に繋げる。			
後期	5	金財の実技（午後）問題演習	他の協会の午後問題を解くことにより、特にライフプラン（年金関係）の計算問題を理解する。		過去問題を使用して実技問題を解いていく。	
	6	事例研究・考察	これまで学習してきた内容で興味ある分野を事例研究で理解を深め、プレゼン力の向上を図る。		調べ学習を行い、プレゼン資料の作成後、発表する。	
	7	プレゼンテーション発表				
評価規準・評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
F P に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、ライフプランを助言できる知識・技能を理解している。		F P における各種の計算・分析方法の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し表現する能力を身につけている。		F P に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、そこから得られる情報を活用する態度を身につけている。		
定期考査 小テスト		定期考査 小テスト		提出物		
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ １：１：１						
担当者からのメッセージ						
・なるべく欠席しないようにしてください。 ・F P 検定２級（F P 協会主催）に是非とも挑戦してください。						

科目名	IT 技術	学年	専修 4 年生	使用教材	教科書	・とうほう「全商情報処理検定試験プログラミング部門 1・2 級対応アルゴリズム入門」・実教 全商情報処理検定模擬試験問題集 プログラミング 2 級・技術評論社「栢木先生の基本情報技術者教室」
		単位数	通年 3 単位（選択）		副教材	
学習の目標						
・ IT に関わる職業人としてだれもが共通に備えておくべき基礎的な知識を身に着けることを目標とする。 ・ 基本情報技術者試験レベルの知識の習得を目指す。 ・ アプリケーションの企画、開発のために HTML, CSS, JS を学ぶ						
学習の概要						
「IT 管理」の履修をしていた生徒が対象。基本情報技術者レベルの知識の習得を目指す。理論の理解のためアルゴリズムの学習を通じて流れ図、処理、検索の方法を学ぶ。WEB アプリの開発、コンテストの応募、ドローンや VR といった先進的な技術を学ぶ機会を持つ。						
学期	学習内容		学習のねらい		学習方法	
前期	(1) コンピュータ構成要素 (2) ソフトウェアとマルチメディア (3) 基礎理論 (4) アルゴリズムとプログラミング (5) システム構成要素 (6) データベース技術		コンピュータの構成と CPU について理解する。ソフトウェアと OS について理解する。確率、基数変換について理解する。アルゴリズムとプログラミングについて理解する。システム構成・稼働率について理解する。データベース技術について理解する。		理論の学習と並行して MonacaEducation や Scratch といったオンラインサービスを使用したプログラミング学習をする。	
後期	(7) ネットワーク技術 (8) 情報セキュリティ (9) システム開発技術 (10) マネジメント系 (11) ストラテジ系 (12) プログラミング言語（疑似言語）		インターネットの仕組みについて理解する。情報セキュリティと暗号技術について理解する。ソフトウェア開発について理解する。プロジェクトマネジメントについて理解する。経営組織とマーケティング戦略について理解する。疑似言語について理解する。		コンテストに応募できるレベルのアプリ作成をグループで取り組む。	
観点別評価規準および評価方法						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
IT 技術+に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、IT 技術の基礎理論及び基本構造について理解している。		IT 技術における各種の計算や情報の活用などについて、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。		新しい技術・知識を主体的に学ぼうとする姿勢と情報を活用する態度を身につけている。		
問題演習・小テスト		問題演習・小テスト		授業への参加		
観点別評価の割合 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 ＝ 1 : 1 : 1						
担当者からのメッセージ						
基本情報試験や全国商業高等学校情報処理検定プログラミング部門 2 級の取得、プログラミングの知識の習得を目指します。理論と合わせてアプリ開発に取り組み最終的に開発したアプリを提出してもらい評価をします。						